

SPL	カテゴリー名	項目の説明	方針・戦略・（目標）	具体策・具体的目標または実施検討策	これまでのアクション（青文字はリンク有）
1	ポリシーとコミットメント、レポーティング	「ポリシー」は、方針・基準・ルールなどを指すことば、「コミットメント」は責任をもって約束すること、「レポーティング」はわかりやすく報告すること。SPLでは、環境・サステナビリティ（持続可能性）について、長期的・包括的な目標を立て、それを果たし、広く情報を伝えるよう示しています。	エスパルス×サステナビリティ方針 私たちは、スポーツの力で「持続可能な社会・経済・環境を未来に繋げる」ことを目指し、地域の皆様とともに地域課題の解決や新たな価値創出にチャレンジします。そして静岡をはじめ、全国のファン・サポーター、パートナーとともに具体的アクションを起こしていきます。	CO2実質排出ゼロ達成目標 私たちは、CO2実質排出ゼロに向け策定したロードマップに基づき、具体的なCO2排出量削減目標※と中長期的なビジョンを皆様と共有しつつ、目標達成の実現を目指します。 ※2030年度までに基準年度比50％削減、2050年度までに実質排出ゼロを達成。また、意欲的な目標として2045年度までの早期達成を目指す。（詳細はロードマップ参照）	■クラブインパクトレポート制作（2026/03公開） （IMPACT REPORT P19ほか:ネットゼロ目標） ■『2021年シーズン温室効果ガス排出量の算定に関する報告書（静岡大学サステナビリティセンターカーボンニュートラル推進チーム）』（SC1-3排出量：2022/09公開）※現在2025年シーズン算定中
2	再生可能エネルギー	「再生可能エネルギー」は、太陽光・風力・地熱・バイオマスなど、資源が枯渇せず繰り返し使えるもの。 温室効果ガスも排出せず、国内で生産できるのもうれしい！そんなエネルギーをクラブが関連するすべての施設で使おう！という項目です。	再生可能エネルギーへの転換について エスパルスは地域のエネルギー事業者等とのパートナーシップにより、2025年2月より、クラブ関連全施設にて「静岡県産100％実質再生可能エネルギー電力」を導入しています。 ※バルちゃんでんきグリーンプランforBiz協力： 鈴与商事(株)、鈴与電力(株)	もっと！再生可能エネルギー目標 今後は、熱等の再生可能エネルギー※利活用・転換を目指します。 また、ホームゲームやWebサイトにおいて、ファン・サポーターに対し、再生可能エネルギー活用を促進するための情報発信や、地域における「〇〇×再生可能エネルギー」のコラボレーション事業支援を積極的に行います。 ※太陽熱、地中熱・地下水熱・バイオマス熱などの活用を検討し、段階的な採用を目指します。	■クラブ関連全施設にて「静岡県産100％実質再生可能エネルギー電力」導入： ★クラブニュースリリース（2025/02導入時公開） ★クラブインパクトレポート（2026/03公開） （IMPACT REPORT P26） ■ソーラーカーポート設置・活用： 地域のご当地電力企業※(地元企業・NPO法人出資による）がスタジアム正面広場にソーラーカーポートを設置。 発電された電力で静岡市庁舎の電力を賄い、利用者の雨・日除けとしても活用される。クラブもPRに協力。 ※2025年発電実績54,545kWh（しずおか未来エネルギー(株)） ■その他：パーキングスペース足元灯として複数の簡易ソーラーLED灯設置 ■バルちゃんでんきグリーンプランfor Biz協力： 事業所向けに静岡県産実質100％の再生可能エネルギーを提供する「バルちゃんでんきグリーンプランfor Biz（鈴与商事㈱販売）」にブランド提携、スタジアム看板やWebサイト等でPR協力し、複数のパートナー企業でも導入が始まっている。
3	エネルギー効率	ここでいう「エネルギー効率」は、電気や熱など、投入したエネルギーに対して、どれだけ効率的に使えるか、ロス（損失）を出さずに使えるか、ということ。電気だけでなく、クラブが使用するガス・ガソリンなどのエネルギー全体が対象です！	エネルギー効率改善方針 クラブ施設の設備・機器等の更新時、より高効率・省エネの設備・機器等を導入します。また、電化（熱・燃料の電気への転換）の促進によりエネルギー効率改善をはかります。	具体的な改善方法 ・全施設における全般的な省エネ行動の推進（電気・ガス等） ・LED照明の積極的度入 ・機器更新時の高効率空調等への切替 ・国民運動デコ活や、ホームタウン・ファミリータウンの省エネ施策を支援するコラボレーション事業の企画・実施や積極的な協力をしていきます。	■超高効率ガスヒートポンプエアコン導入： クラブハウス/事務所に「超高効率ガスヒートポンプエアコン※4台導入従来機比、APFp（期間成績係数） 最大15%向上） ■スタジアムLED照明・大型ビジョン導入（他施設も順次切替中） ■静岡市×エスパルス 省エネ家電（買換え）キャンペーン実施中：（2026/06-）
4	環境負荷の少ない移動手段	「環境負荷の少ない移動手段」というのは、具体的に、公共交通（電車・バスなど）や、自転車・徒歩などを指します。また、パーク＆ライド（車で来てでも途中から公共交通に乗り換え）や乗り合いも環境負荷（温室効果ガス排出など）が減ります！エコドライブ・エコカーへの切替なども効果的！	エコ交通におけるポリシー 私たちは、まずクラブスタッフ・チームの移動において、エコカーへの転換・エコドライブ推進・公共交通機関の積極的利用や、チームバス等の適正利用を強力に推進します。 また、ホームゲーム来場を、移動も含めたアトラクションとして位置づけ、ファン・サポーターの皆様快適にお楽しみいただくべく、情報発信や改善のための調査を随時行っています。	実施中の具体策 《スタッフ》 ・テレワーク、部分リモートワークの推進 ・社有車新規購入・更新時にエコカー（EVなど）、ハイブリッドカーなどを採用 《ファン・サポーター》 ・「“選べる”来場方法” 情報の提供…公共交通機関のみならず、パーク＆ライドやウォーキングイベント開催情報等、多様な来場方法をWebサイトやスタジアム大型ビジョン等で提示、エコ交通推進中 ・シェアサイクルPULCLLE利用促進（利用者に脱炭素県民運動アプリポイント付与等インセンティブ有）や、臨時駐輪場設置による自転車来場促進 など	■エコ交通（公共交通・自転車・徒歩・乗合い・パーク＆ライド推奨）来場啓発（通年） ・公式Webサイトにおける発信 ・小学校（静岡市）配布下敷きに啓発ワード ・ホームゲーム時に静止画ビジョン1枚投影 ・静岡県脱炭素アクションアプリと連携しエコ交通来場者にポイント付与 ※2025/11/9には、事前にSNS等でエコ交通来場を呼びかけ、当日・ルート調査を実施。 568人で約3.5t-CO2削減/日の効果があった。 ■シェアサイクルPULCLLEへのブランド協力とホームゲーム利用促進のための臨時駐輪場の設置 ・PULCLLEについて ・臨時駐輪場について ■交通調査結果（2026/1-6月ホームゲーム来場者）： 来場者に対して、メールにてアンケートを送付、回答者の利用交通手段をまとめたデータをWebサイトで公開中
5	使い捨てプラスチック削減・廃止	PETボトル、レジ袋、ストロー、弁当の容器など、1回使ったらすぐ捨てられる/資源回収に出すようなものを「使い捨てプラスチック」と呼びます。リサイクルにもエネルギーが必要なので、そもそもの使用を減らすことが大切です！	使い捨てプラスチック削減方針 私たちは、「使い捨てプラスチックゼロ」と「サーキュラーエコノミー」の実現のため、クラブが関係するすべての施設において、石油由来原料のプラスチックの新規使用量について、2050年度までにゼロとすることを目指し、段階的※な目標を設定し、それに準じた対策を進めます。	2050までの対策/流れ（検討中） 《中期的：2030年度までを目途に》 ・PETボトル等の容器含め、バイオマスプラスチックまたは紙容器※利用を促進 ※エスパルスでは難再生古紙も回収、トイレットペーパーにリサイクルしています。 ・社として購入する文具・消耗品などにおけるワンウェイプラスチックをゼロにすべく検討・努力 ・配布グッズ等の包装におけるプラスチック袋等の利用をゼロに ・Webサイト、イベント等により、これらを推進するための啓発を積極的に行う 《長期的：2050年度までを目途に》 ・クラブ関連施設のすべての使い捨てプラスチックをゼロに ・サプライチェーン全体での使い捨てプラスチックゼロを目指す	■紙コップ利用の推進・リサイクル： ブラカップよりも紙コップ使用を推進し、スタジアム飲料コップ（紙）をトイレットペーパーにリサイクルしている（2026/1-6月で530kg処理） ■スタジアム店舗： 店舗により、レジ袋や2本目からのスプーン有料を謳い、排出抑制を図る取り組み有 ■ホームゲーム入場ゲートサンプリング袋： バイオマス30％（廃糖蜜使用、65％CO2削減）のものを利用（年間約21万枚） ■配布グッズの個包装無し

SPL	カテゴリー名	項目の説明	方針・戦略・（目標）	具体策・具体的目標または実施検討策	これまでのアクション（青文字はリンク有）
6	ゴミの削減管理	単に「ゴミ」を減らしましょう！ではなくて、全体の廃棄物のうち、燃やすのは半分以下、残りもリサイクルや他の活用を目指しましょう！という項目です。	焼却処分する廃棄物をゼロに 私たちは、クラブが関係するすべての施設から発生する廃棄物（重量）のうち、焼却処理するものを極力ゼロに近づけるため、まず排出抑制、次いで再利用・再生利用に努めます。 また、最新技術を積極的に採用することによる利便性を損なわない代替物利用の促進、ファン・サポーターのリユース率向上の仕組みづくりを行います。	2050までの対策/流れ 《実施中》 ・スタジアム回収/収集ステーションを設置、対象物を多様化（フードバンク・古着や絵本回収等） ・芝草の肥料化 《今後に向けて（検討中）》 ・クラブに關係するすべてのリサイクル可能な紙類（難再生古紙含む）をリサイクル ※エスパルスでは難再生古紙も回収、トイレットペーパーにリサイクルしています。 ・ユニフォーム等物品をアップサイクル ・ステークホルダー全体の廃棄物対策を後押し（ブランド力活用等による）	■各施設の雑紙回収・リサイクル（通年）： ・雑紙を回収・リサイクルしている 2025回収量は約35.5 t、リサイクルにより完成した トイレットペーパーはスタジアムトイレで利用、また量に応じて学校等へ配布） ・SDFでは、一般からの回収時に県民運動青アブリのポイントを発行（IMPACT REPORT P24雑紙リサイクル） ■雑紙回収・啓発キャンペーン： - コアレックス信栄・東海大翔洋小とエスパルスで「家庭の雑がみ回収ブース」を設置、雑紙回収・リサイクル製品（トイレットペーパー）進呈・取組み紹介等を実施（2026/03/22） 雑紙回収実績：760kg ・事前告知 ・レポート ■フードドライブ&絵本リユース 啓発ブース： - 未利用食材/食品回収・絵本リユースコーナー設置・環境アンケート実施（2026/05/31） ■紙コップリサイクル促進広報： 2026/03/14、2026/05/12ホームゲーム当日に呼びかけ ・3月呼びかけ ・5月呼びかけ ■スタジアムクリーンサポーターズ（2026年2-5月10回で177人参加） ■スタジアム・練習場の芝草： - 廃棄・焼却処分せず、地元木材産業協同組合にて木片と混ぜ堆肥化（スタジアム＋練習場で約5 0t分） ■スタジアムでの各種看板・パネル等リユース ■スタジアムでのごみ分別徹底 ■オフィス等での取組み： ペーパーレス推進
7	水の効率的な利用	ここでは、水の使用をどれだけ減らせるか、どれだけ効率的に使えるかが問われます。水道で手を洗う、調理に使う…などの時の水だけではなく、雨水やエアコン排水などの二次利用水も大切に使用・活用しよう、と呼びかけられています。	節水・水循環方針 生命・社会・経済活動に不可欠の水は“限りある資源”です。飲料用以外にもすべての水利用時における無駄を省き、効率的な利用を心がけるとともに、水を育む地球・地域の環境保全に努めます。	実施中/実施検討中の具体策 《スタジアム》 ・スタジアム（日本平運動公園）では水循環システムが確立されており、湧水・雨水など雑用水の活用と芝生管理における節水がなされている ・トイレ400基の節水（フラッシュ弁の調整により最少流量に設定） 《ファン・サポーター向け》 ・子ども向けに配布している教材『エスパルスエコノート』で節水の呼びかけ ※今後は、練習場のの芝散水（65 t/回）についても、節水・水循環システム導入を検討	■スタジアムにおける雑用水の活用： 180 tの湧水貯水槽を有し、60t×2基の受水槽を経てスタジアム内、以下に供給されている（2025実績：計7652㎡/年） ・トイレ洗浄用水・雑用水 約3,076㎡/年 ・芝生ピッチ散水用水 約4,576㎡/年 ※2026年度1-5月（速報）計3,193㎡の雑用水活用により、同量の水道使用量を削減（みなし）
8	プラントベース/低炭素食品	「プラントベース」というのは、植物由来の原料から作られた食品のこと。「大豆ミート」、豆乳やアーモンドミルクなどの「植物性ミルク」もこれにあたります。「低炭素食品」は食品の生産から廃棄のライフサイクルでのCO2排出量が比較的小さい、環境に配慮した食品です。そういった食品をみなさんや選手が選べるようにしよう！という項目です。	健康・環境負荷低減の両立食生活推進方針 私たちは、健康的で、環境負荷のより低くなるような食品を選択し、その活用を継続し、またその意義やインパクトを積極的に内外に発信することで、人間・環境・社会・経済のウェルネスに貢献していきます。	実施検討策 すべての試合のスタジアムグルメやホスピタリティエリア、クラブハウスにおいて、スタッフと選手に持続可能な方法で調達された健康・環境負荷低減を両立するフードオプション提供を目指します。	■選手食事： - 宿泊/滞在先はビュッフェ形式にしており、菜食や時折は大豆ミートを使った料理等の提供を行い、選択できるようにしている。練習後ケイタリングや弁当についても、時折同じような選択肢を設けている。 ■アカデミー生へ提供される飲料： ・環境循環型システム採用（放牧乳牛・牧草・堆肥）の牛乳 ■スタジアム飲食店： - 各店地産地消食材利用の旨POP等で表示 ・環境循環型システム採用（放牧乳牛・牧草・堆肥）の乳製品販売店など
9	生物多様性	生物がバラエティーに富んでいることを「生物多様性」と呼びますが、おそらくこの“生物”と“多様性”はみなさんが想像するよりも広い範囲を指しています。“生物”は動物だけではなく、植物も、微生物もお互いに関わり合って生きています。「生物多様性」は、生物をとりまく水・土や気候など自然界のものや動きも含めた“生態系”の多様さも求めています。	生物多様性保全における方針 私たちは、自らも生態系の一部であることを深く自覚し、空気・水・食料・生態系サービスなどの自然の恵みに感謝し、地域の多彩で豊かな自然環境を将来の世代に継承すべく、責任をもってこのつながりの保全に努めています。	実施中/実施検討中の具体策 現状をただ維持・保全するのではなく、人の手を加えたり活用したりすることで生物多様性・持続可能性を高めるための取組みを積極的に行います。 《実施中》 ・練習場の芝コアを活用して、地域の校庭・園庭芝生化を支援することで、ヒートアイランド現象や砂埃対策、地域の方々や子どもたちの、環境教育・情操教育・健康のための活動促進に寄与 ・地元の美しい風景と防風林の役割をもつ景観地区において、松の病虫害対策と世代交代を促進するため、ファン・サポーターとともに定期的な松葉かきを実施 ・地域の自然や育まれる材などについてスタジアムブース等で紹介 《検討中》 ・スタジアム周辺の知られざる豊かな自然環境・生態系について学び、触れ、調査するイベント等の開催（年2回程度）を検討する	■しずおか校庭芝生化応援団活動： - 練習場コアを活用しポット苗づくり、地域の施設への植え付け等を地域企業・ボランティアとともに実施（通年） ■三保松原保全アクション・キャンペーン展開： - 松葉かきボランティア募集、参加者にグッズ進呈など（通年）※静岡市・故紙センタートヨタと連携実施 ■「オクシズの森林と木材」ブース/イベント展開： ・静岡市 森林経営管理課、静岡農業高校と連携しホームゲーム時にブースを設け、市の森林の働きや木材の魅力を発信、来場者に市産材グッズ進呈（2026/03/22） ・KIDS PARK36 - 親子向けに、オクシズ材の遊具を使って楽しく体を動かすイベントを開催（2026/3/26と3/29） ■SDGsガーデン花植え付けイベント実施： - 静岡県信用農業協同組合連合会より寄贈の「宙炭※」を申込者と植付けするイベントを開催。約40人参加。（2026/04/26） ※宙炭は約10aで約1t-CO2を削減するとされています ・事前告知 ・レポート ■スタジアムに放置竹林活用休憩スペース設置

SPL	カテゴリー名	項目の説明	方針・戦略・（目標）	具体策・具体的目標または実施検討策	これまでのアクション（青文字はリンク有）
10	教育	ここでいう「教育」は、選手・スタッフのみならず、ファン・サポーターのみなさん、アカデミーやスクール生に、持続可能性や気候変動に関するプログラムやトレーニングを実施しよう！というもの。エスパルスと一緒に私達の未来やそのためにできることを考えていきましょう。	教育活動におけるポリシー 私たちは、環境・地域・地球規模の課題を「自分ごと」として捉え、持続可能な社会の担い手を育むESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）の理念を重視し、選手・チームやファン・サポーターのみならずホームタウン・ファミリータウンと連携した教育活動により地域全体の環境リテラシー向上に貢献できるよう努めてまいります。	実施中/実施検討中の具体策 これまでも主に子どもたちに向けた、環境・地域・気候教育を実施してきました。今後その継続と共に、対象を選手・スタッフ、ファン・サポーターと広げ、テーマも多様化させていきます。また、学びの"先"の行動変容についてもサポートしていける体制を整えます。 また、クラブ内でも、選手・環境アンバサダー・ホームタウン事業部スタッフを中心として、“学ぶ”側から“伝える”側としての研鑽を積み、気候アクションを実践します。 《実施中》 ・ホームタウンである静岡市と連携し、エスパルスを通じ環境問題に関心を持ち自分ごととして考えてもらうこと、学びをサポートすることを目的にオリジナルの『エスパルス エコノート』を毎年制作、市内の全小学4年生へ贈呈。また本ツールを活用して、市内小学校での環境教育を実施 など実績多数 《検討中》 ・クラブの集客力やブランド力を活かして、持続可能性・気候変動に関する情報を積極的に発信し、自治体や企業・団体等と協力し環境教育プログラム作成やツール製作を行い、実用する など	■社内勉強会（2026/5/15・スタッフ33人参加） インバクトレポート・サステナビリティ活動がもたらすインパクトなどについての勉強会を開催 ■気候アクション研修会（2026/6/18・スタッフ約50人参加） 気候アクション（世界の潮流・Jリーグ・エスパルスの取組み等）とSPLについての研修会を開催 ※選手向け気候アクションに関する勉強会を近日開催予定（2026/7/2予定）
11	コミュニケーションとエンゲージメント	「コミュニケーション」は伝えあうこと、「エンゲージメント」は信頼や愛着に基づく強い結びつきのこと。仕組みやその意義を一方的にお伝えするのではなく、“環境アクション”において、クラブとみなさんは対等な立場で、互いに高め合い、持続可能な社会へ歩みを進めていこう、というメッセージが込められたタイトルです。	コミュニケーション・エンゲージメントにおけるポリシー 私たちのWebサイトやインバクトレポート等において、サステナビリティに関する方針・戦略等を明確にし、実際の活動においても一貫して示していきます。また、広報・教育などの環境コミュニケーションを通じて、ファン・サポーターの日常における持続可能な選択を行う意識・行動変容をサポートします。	具体策 「わかりやすく伝える」「受け手が自分ごと」として捉えやすくすることを常に意識して発信します。 ・図やイラストを用いて、発信内容の分かりやすさを追及する。公式Webサイトを随時更新し、ブラッシュアップする。 ・ファン・サポーター、パートナーの声を取り入れる体制を随時整える。	■クラブ公式サイト【エコチャレンジTO 2050】ブラッシュアップ（随時） ※同サイト内SPLアクション（本PDF）についても随時更新予定
12	持続可能な調達	何かを調達/購入するときに、品質や価格だけでなく、環境・社会・経済の持続可能性についても考慮して調達しよう、というのが「持続可能な調達」の考え方。資源・環境・人権・安定（継続）性・・・モノやサービスのバックグラウンドにも注目！	持続可能な調達についての方針 私たちは、トレーサビリティの確立に努め、2050年度までにクラブが購入するすべての物品について、持続可能な調達を徹底することを目指し、段階的※な目標を設定し、それに準じた対策を進めます。 ※具体的には、気候変動対策・生物多様性保全・人権問題や社会課題解決、その他各種リスク対応に配慮した調達のこと。	実施検討策・具体的目標 クラブチームとして、将来に渡り安心・安全、公正で安定的な環境・製品・サービスの供給を継続できるよう、環境・社会・経済への影響に配慮した「持続可能な調達」を目指します。 《中期的：2030年度までを目途に》 ・チームウェア・印刷物・来場者プレゼント等の調達時に、その物品のLCA等を確認するようにする ・社として購入する文具・消耗品などの調達時、環境配慮やSDGs達成に資する表示等確認を義務付ける ・ホームゲームにおける販売物等について持続可能性に関する表示を推進する ・Webサイト・イベント等により、個人/家庭・事業所で行うことができる持続可能な調達についての情報発信を積極的に行う。 《長期的：2050年度までを目途に》 ・社として購入するすべての物品・サービスについて、持続可能な調達100%とする ・サプライチェーン全体で持続可能な調達の義務付けを徹底する	■オフィス文具・消耗品等： ・コピー用紙：PEFC認証品、かつ代金の一部がインドネシアでの植林支援に充当されるもの（1箱につき2本以上植林）を使用 ・ホームゲーム入場ゲートサンプリング袋：バイオマス30%のものを利用（年間約21万枚使用） など ■スタジアム（サポーターに対する）サプライ関連： ・試合看板：リユースを主とし、リサイクルできる素材等を活用 ・スタジアム外待合スペース設置ベンチ：スタジアム内のベンチをリユース、UPサイクルして使用 など ■ユニフォーム・グッズ等： ・PUMA 清水エスパルス 2026 1st オーセンティックユニフォーム：リサイクルポリエステルを使用（2023-継続使用） ・S-PULSE×PUMAビッグキャットリンガーTシャツ（ホワイト/ブラック）：20%以上のリサイクルコットン素材使用 など